



受賞作品をご覧いただける移動展を4月12日まで開催します。日程や会場など詳しくはこちら▶



祝 日本ICT教育アワード 4年連続受賞 GIGAしこちゅーに総務大臣賞

ICT教育のモデルケースとなる優れた取り組みをたたえる「日本ICT教育アワード」の表彰式が、2月3日に東京都で行われ、本市が総務大臣賞を受賞しました。子どもたちがワクワクするICT教育を目指す、産学官の連携で推進する「GIGAしこちゅー」が、今回も高く評価されました。

新春の紙のまちに筆の音が響く 競書大会で日々の研鑽の成果を披露

1月18日、昨年の書道パフォーマンス甲子園の作品で彩られた伊予三島運動公園体育館で、「日本一の紙のまち四国中央市新春競書大会」が開催されました。

書道人口の拡大と伝統文化の振興を目的に、毎年行われているこの大会に、今年は、市内外から373人の小中学生が参加しました。出場者たちは、藤原製

紙所（金生町下分）の手漉き和紙に、「正月」、「友情」、「輝ける未来」などの課題文字を力強く揮毫し、日頃の研鑽の成果を競い合いました。

幕あいには、三島高校と川之江高校の書道部による合同書道パフォーマンスが披露され、競技中には、川之江高校日本文化部が琴の演奏を行うなど、出場者たちに温かいエールが送られました。



祝 箱根駅伝区間新記録&世界進出 駒澤大学佐藤圭汰さんを激励

今年の箱根駅伝復路に出場し、10区の区間新記録を樹立した駒澤大学4年生の佐藤圭汰さんを迎えた激励会が、1月31日、祖父母が暮らす新宮町上山でありました。激励会には、佐藤さんを応援する地域住民約40人が集まり、更なる高みを目指してアメリカへ渡る佐藤さんの背中を真心を込めて押しました。



祝 21世紀えひめの伝統工芸大賞 村上三枝子さんの水引細工が最高賞

1月21日、県内の価値ある商品を顕彰する「21世紀えひめの伝統工芸大賞」で、村松町の村上三枝子さんが製作した水引細工「五節句」が見事大賞を受賞しました。

村上さんは「祖母や母が伝えてくれた日本古来の風習を、この地の伝統工芸で表現したことが評価されて嬉しい」と語りました。

新春やまじっこマラソン大会 900人が小雪の中で走り初め



1月11日、土居町土居の関川河川敷ふるさと広場を発着点に、新春恒例のマラソン大会が開催されました。参加した老若男女約900人のランナーたちは、到来した寒波で雪化粧した山々に見守られながら、時折舞う雪をものともせず、極寒の河川敷をやまじっ風のように力強く駆け抜けました。

文部科学大臣杯 全日本少年春季軟式野球大会 四国中央ベースボールクラブが出場



中学生の軟式野球チーム「四国中央ベースボールクラブ」が、昨年秋季の県大会で優勝し、3月に岡山県で開催される全国大会への出場を決めました。2月2日、選手22人が出場報告のため市役所を訪れ、大西市長に「全員野球で勝利をつかみます」と大舞台に懸ける意気込みを伝えました。

災害時の衛生対策に役立ててほしい 株式会社トーヨがウェットタオルを寄贈



1月16日、株式会社トーヨ（長野良三代表取締役社長）から、長期保存ができるウェットタオル5万本が寄贈されました。寄贈式では、同社の長野久典常務取締役が「避難生活における衛生対策に役立てていただき、市民の皆さまの不安を少しでも解消したい」と、寄贈に込めた思いを述べました。

安心して暮らせるまちづくりに貢献 四国電力がポータブル電源を寄贈



1月16日、四国電力株式会社（宮本喜弘取締役社長）から、災害対策で活用してほしいと、ソーラーパネルを備えるポータブル電源が寄贈されました。寄贈式に出席した東予営業所の渡邊三知博所長は、「今後も安心・安全な地域づくりを支えたい」と述べ、更なる社会貢献活動への意欲を示しました。

環境の保全と地域の安全のために 今治海上保安部と本市が協定を締結



1月29日、今治海上保安部（谷口仁也部長）と本市は、それぞれの技能や人材、情報などを活用し、地域の課題に対応するため、連携協定を締結しました。また、この協定書には、愛媛大学紙産業イノベーションセンターが開発した、一定時間内であればインクを消せる特殊な紙が初めて使用されました。

金砂・富郷地区の魅力創出をサポート 地域おこし協力隊に渡部勝之さんが着任



金砂・富郷地区の地域おこし協力隊に、大阪府出身の渡部勝之さんが着任しました。2月2日、市役所で大西市長から辞令を受けた渡部さんは、「バス釣りを通じて地域のみなさんの温かさに触れました。地域に溶け込んで、みなさんと一緒に魅力を発信していきます」と活動に懸ける思いを述べました。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



祝 えひめ自主防災アワード 優良活動賞受賞 燧灘防災会の取り組みが高評価

次世代への防災・減災教育に取り組む燧灘防災会（大西忍会長・写真中央）の優れた教育・啓発活動が評価され、「えひめ自主防災アワード」の優良活動賞を受賞しました。

1月29日には市役所で表彰状の伝達式が行われ、大西会長が受賞の喜びを語るとともに、今後の活動への意欲を示しました。



「気を付けて帰ってください」 中学生が交通安全を呼び掛け

地域の交通安全意識の向上を目指して、市交通安全母の会（高橋玲子会長）が川の江地域の中学生と啓発活動を行いました。

1月14日と21日に市内のスーパーで実施された活動には、28人の中学生が参加し、手作りのお守りやチラシを配りながら、来店者に優しく交通安全を呼び掛けました。



市内放送の内容は文字情報でもお知らせします



市内放送があるとメニューの「！」が点滅します

「行政チャンネル」で
市内放送が聞けます

2月末からケーブルテレビ「行政チャンネル」でデータ放送が始まります。録音された市内放送がテレビで聞けるほか、市からのお知らせが文字で読めます。



土づくりへの思い

百姓の端くれの家に生まれながら、ほとんど農業のようなことができていない。小学校の頃、定規の前に並んで田植えの列に加わり、稔った稲を鎌で刈って藁で束ね、一輪車に山積みで運んで稲架木に架ける取り次ぎをし、最後に落穂拾いをした。その思いも遙か半世紀前のことである。

市役所を辞めた年に畑に植えたレモンや晩柑なども、手入れどころか、少し生り始めた実を収穫することすらままならないという情けない日々を過ごしている。

また、わずかに残された田んぼも、中古のトラクターに乗り、ご近所に迷惑をかけるないように、雑草の生命力を恨めしくも思いながら、収穫の無い耕うんを繰り返すのが精一杯という年を重ねている。夕暮れ時の田んぼで、トラクターが直進している間にいるんな事に思いを巡らせるが、あるとき、「土づくり」という言葉が頭をよぎった。この耕作放棄地で再び何か収穫を求めようとするとき、どんな土づくりが必要なんだろう。素人

逆風

浩帆！ 大西賢治



には全く想像がつかない。

有機物である堆肥を鋤き込み、石灰で酸度を調節するなど、通気を図る物理性、栄養を含ませる化学性、微生物を意識した生物性などのバランスを整えるのが土づくりであろうが、作付けのために何を留意してどうすればいいのか？ 具体的なイメージが湧かない。

一方で、昨年末から、令和8年度の市政運営で、少しでも多くの実を生らすことができるよう、市役所というフィールドの土づくりを頭を悩ませながらも精を出している。こちらは、弱音を吐いて背を向けることができない。

市議会のご理解も戴き、組織・機構という器の形は概ね整えることができた。そこに適材適所を追求しながら職員を貼り付け、ビジョンやスピリッツを示しながらミッションを説いていく。組織の風通しは？ 職員のモチベーションは？ より効果的な予算組みは…？ 初めての土づくりと作付けも、いよいよ大詰め差し掛かる。